

金目川ネットの部屋が出来ました。皆さん、お気軽においで下さい

- 東海大学内に「NPO法人東海大学地域環境ネットワーク」が発足したのに伴い、その一部の部屋を当「金目川ネット」が使えることになりました。引越しその他で今年度は活動が遅れましたが、これからは「溜り場」で賑やかに情報交換・交流しましょう！
場所は 8号館3階キーナンバー46の部屋（守衛室でお聞きください）。
毎月第2土曜日の1時30分～4時 新しい部屋で例会を開催します。
 活動の相談のほかに、勉強会も予定。
- 「循環型社会をこの地域で具体化すること」を目指す当ネットワークとしては、「循環型社会とは?」「国内外の地域再生」「この流域の現状」など、自由にレポートして話し合います。ふるってご参加下さい！

行事などのご案内

○「秋の金目川見て歩き」（水系一斉調査）のお知らせ

今年は「金目川見て歩き」として、11月12日（集合は、午前10時～現地）

雨天の場合は19日（日）に、実施します。

集合場所 秦野市「くずはの家」（右図のとおり）

集合場所への行き方（バスの交通案内）

秦野駅北口より、榎木堂・菩提經由横野入口（秦50）、同經由渋沢駅北口（秦51）及び榎木堂經由高砂車庫前（秦52）ゆきの3系統のバスのいずれかで、

「宮上」バス停下車（徒歩、およそ3～5分）

見学場所（主な地点は下記の通り、徒歩で約8km程度）

- ① 金目川と葛葉川、金目川と室川、及び室川と水無川の合流点（以上、主要河川の合流点）
- ② 九沢橋、入船橋、十代橋、天王下橋、弘法橋、室川橋など（以上、主要橋上からの観察地点）
- ③ 葛葉湧水、河原町湧水、弘法の清水、寿徳寺湧水の4カ所（以上、秦野名水百選の地）



○「金目川水系流域フォーラム2007」の開催

2007年2月4日（日）に東海大学13号館で開催予定

テーマは未定（希望テーマなどがありましたら、是非お聞かせ下さい）。

今年度は、上記「東海大学地域環境ネットワーク」と共催することになりました。

- 今後、「せせらぎ通信」14号、15号、16号（フォーラム特集号）の発行を予定しています。掲載原稿や掲載記事などのご希望がありましたら、是非お寄せ下さい。

金目川の水源地を8人で訪ねました。(7月8日(土)曇)

○金目川水源地調査レポート

文責 小出淳一 調査担当 西岡 哲、小出淳一、佐藤 壮

去る7月8日に金目川水源地を訪れ、現地の様子を観察した結果をご報告します。

場所は大山山頂の南方へ約800m、標高約800mの地点で、阿夫利神社下社より徒歩約1時間の所に水源地があります(図-1)。周辺の地形は南向きの急斜面で、幅約20mの谷を砂礫が埋めている谷地形となっています。この砂礫を「崖錐(がいすい)堆積物」と呼び、堆積物中に沢水が潜り込み地表面下を流れる水を「伏流水」と言います。

現地で確認された①～④の水源地(図-2)のうち、①～③はこの伏流水で、崖錐堆積物中に湧き出した地下水が集まって湧水しているものです。④は支流で、岩盤の上を流れる表流水が直接合流しています。

表-1に流量と水質を調べた結果を示します。

表1 調査結果一覧

地点	流量 (l/分)	電気伝導度	水温 (°C)	pH
① 滝	326	49.2	14.0	7.2
② 湧水	276	46.5	13.5	7.0
③ 湧水	80	45.1	13.0	7.0
④ 沢	228	45.5	13.0	7.0
合計	910	—	—	—

特に、①は湧水が滝となっていて、岩石が露出した露頭となっています。転がって割れた石を見てみると、縁っぼい砂が固まった岩石です。これが緑色凝灰岩(りよくしょくぎょうかいがん)、通称グリーンタフという岩石で、新第三紀の火山活動によってできた地層です。大山周辺の地質(岩盤)は、主にこのグリーンタフからできていて、その表面に厚さ数mの関東ローム層(赤土のこと)が覆

図2 水源地近傍の流水状況スケッチ



図1 水源地案内図



いかぶさっています。これらの地層中に含まれた地下水が徐々に染み出してくる事によって、この水源や

他の沢水を供給していると考えられます。

また、中部の下流側では、複雑に合流、分流、伏没を繰り返し、最終的にはもっと下流で一つの沢として合流しています。従って金目川水源の流量は、①～④の合計910 l/分ということになります。7月5日に降った雨(AMEDAS 平塚で41mm)の影響で、普段よりも多く流れていると推定されます。

「隣の沢はなぜ流れていないのか」や「鹿の食事はどんな影響があるのか」など、疑問は多

く残りますが、今回のような地道な観測を続けていくことが、流域全体への理解を深めることとなると思います。

水源 花水川物語 (四十七)

府川清

大山のケーブル下から西へ
阿夫利神下社から西へ
水源への一歩を踏み出す
小さな崖から水が滲み出し
雪が一滴一滴垂れている
そんなことを頭に描いて
曇り空の春嶽山源に向かう

そこから更に西へ下り進む
途中二水源の森や杉の植林
県道の水切りにまじり
水源が大ほんと生えていない
下草が土層を食目立枯れている
腐葉土の層もど生えていない
笹がシカの食われ枯れている

整備された楽な登り下りを
整毛の音から聞こえ始める
谷川の音が中で大きくなる
梅雨の音が大きくなるのか

現地に着きすぐ水源を探す
描いてきた一滴の岩割れ目
上温下右の四カ所の岩割れ目
清流十水の一湧き出て夫々
合流しな水勢よく谷川を下っていく

上を見れば自然の森が豊かに茂っている
水源の涵養林に降った雨が山体にしみこむ
大量の水は浄化され地下水脈となる
標高五〇メートルの春嶽の谷で地上に出現

地元まで水道の源水に一部使われるが
河口まで約二十一キロの旅が
ここに始まる

○水源ウォーキングで感じたこと

種市 紀恵子

捻挫を繰り返す右足にサポーターを着けてまで何故松田町の寄や、春嶽沢の水源に行くの。私の子どもの頃は、すぐ近くに自然に生きる山野の草木、メダカ、トンボ、ホタルを見ることが出来、その生きものから季節の移り変りを知りました。

人々は、たくさんのもを山、川、海からの恩恵として受けましたが、時には手痛い自然の恐ろしさも忘れることは出来ません。恐怖の体験としては、自然災害で 10 代の頃、住んでいた町で、道が一夜にして川と化したこと・・・。

7月8日の春嶽沢は、参加者の日ごろの生活態度が良好の故？ 心配した雨も降らず、ガレ場やロープの山道も、事故もなく大山のバスロータリーまで下ってきて、帰路に着く者、土屋の駒の滝に水質調査に行く者、と分かれました。

春嶽沢も源流は、以前は少し手前の人工的な護岸のある沢に流れていたそうです。大昔、金目川も富士山の噴火や洪水で、今とは流れが変わっています。

鹿が殖え過ぎ？エサ不足か、低い草木の葉や、笹などはほとんど食べ尽されていて、山のことが大変心配になりました。次の世代に私共が財産として残して挙げられる自然や環境を大事にしたいと思います。

○下草がないのはシカだけのせい？

佐々木 園子

大山のケーブルを終点で下り、山頂への石段道を右に見て南西に巻く道を行くと、しばらくは直径 50cm ほどの大木が 5m ほどの間隔で立つ暗い林だった。下草は全く無いといっているくらいで、わずかにあるものはミカン科のマツカゼソウだった。大木はアカガシが多いのか、その落葉が多く積もっていたが、低木や草本のない林は土壌が流れているようだった。やがて尾根筋に出たが、ここからが春嶽沢の水源林で、ヒノキの人工林に防鹿柵がしてあり、下草の無いのは鹿の食害のためとわかった。しかし、柵の中の草も育ちが悪く、表土が流れたためか、酸性雨のためか、土壌がおかしいのではないかと思った。

水音がしてきた方向へ急ぐと、コアカソの茂みの中に 3 箇所、岩の間から水が湧いていて、髭僧の滝から沢を登ってきたという一行が休んでいた。道筋にはヒルが多かったようだ。これもシカの影響だ。丹沢の自然は、シカの個体群を満足に維持できなくなってきているらしい。逆に、その自然を守るために許容頭数を決めてシカが間引かれていると聞くと、シカだけ間引いて自然が戻るものだろうか。

金目川「夏休み生き物観察教室」開催のご報告

柳川三郎

- 日時 平成 18 年 7 月 31 日（月）午前 10 時からと、午後 1 時 30 分からの 2 回実施
- 主催 NPO 法人東海大学地域環境ネットワークと金目川水系流域ネットワークの共催
- 場所 金目川中流域 金目観音橋の下流付近（川幅 25m、水深 15cm ～ 20cm 程度の場所）
- 講師 ① 東海大学（北野先生、藤吉先生と学生 20 名）
② 地域の人たち 10 名
③ 神奈川県環境科学センター 齊藤専門官
- 参加 平塚市立金目小学校、みずほ小学校
延べ参加者 生徒 62 名と保護者 40 名
- 内容 小学生 6 名を 1 班として、大学生 2 名と地域の人 1 名が安全管理を含めて指導した。
特に、水深の深いところや水流の早いところでは、「注意番」として大学生 3 名が活躍した。
- 確認された生き物の種類
 - ① アユ、ウナギ、オイカワ、フナ、ウグイ、アブラハヤ、タモロコ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ボウズハゼ、シマヨシノボリ、ヌマチチブ、ナマズ、ドジョウ、シマドジョウ、コイなどの魚類 16 種類
 - ② ヒラテテナガエビ、スジエビ、アメリカザニガニ、モクズガニなどの甲殻類 4 種類
 - ③ トビゲラ などの水生昆虫多数
- 活動などの様子（活動の効果）
 - ① 自然の川が、劇場のように活気あふれて立体的に盛り上がる。
 - ② すごい成果で、小学生は満足感が一杯。
 - ③ 「生き物を川に戻す」という説得が厳しかったが、すべての生き物を戻しました。
 - ④ 特に、丹念に細かくよく教えてくださったので、すべての小学生が笑顔で、なついた。

写真 活動風景



○ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局 〒 259-1292 平塚市北金目 1117

東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程 佐々木園子

事務局あてのご連絡は **Fax 0463(50)2208**（自然環境課程）あてにお願いします。